

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 11月 7日 開始 10時 30分 ~ 終了 15時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームグリーンピュア あすなる (広島県)
評価調査員の氏名	氏名 上田 治江 氏名 石田 秀子
事業所側対応者	職名 管理者 氏名 池口 仁子 ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

グループホーム [グリンピュアあすなる] 1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471503643	(評価機関で記入)
法人名	いーとも 有限会社	
事業所名	グリンピュアあすなる	
所在地	広島県福山市駅家町大字法成寺2730番地 (電話) 084-972-9674	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 21 年 11 月 7 日	

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日平成 21年 11月15日

グリンピュアあすなるは、自然豊かな環境と人情味深い地域にあり、職員もゆったりと支援している。利用者は四季を感じながら地域とのふれあいを大切に生き生きとした生活を送っている。菜園や花壇があり、植物の手入れや収穫を通し残存機能を活かしその人らしい生活を楽しんでいる。外出支援など無理のない年間行事を皆で考え実行している。管理者は2ユニットのバランスを常に考慮し齟齬の無いよう配慮している。防災対策への取り組みは定期的実施し、地域や消防署との連携をとっている。建物全体は空気よどみもなく清潔である。食事と水分摂取量も考慮され、すべての記録も正確に出来ている。

【情報提供票より】(21年 9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和平成 16年 6月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	19人 常勤 15人 非常勤 4人 常勤換算 14,3人

(2) 建物概要

建物構造	造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000円	その他の経費(月額)	18,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (八百円立上りあり)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	6名		
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 83,6歳	最低	69歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人草浦医院 ・ 寺岡記念病院 ・ 門田歯科医院
---------	----------------------------

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価は都合のより実施されていない。職員一人ひとりの毎月の目標に対する評価を行いサービスの質の向上に努めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	評価項目を職員全体に知らせ意味を共有し質の向上に向け職員との協働で取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	昨年度まで行政と連携し、テーマを決めた取り組みを行っていた。しかし今年度は都合により開催されていない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族会で率直な意見を求め、訪問時に職員から話しかけ、真摯に耳を傾けることで信頼関係を築き、苦情や不安を受け止め、運営に反映している。出された意見についてカンファレンスで取り上げ、職員間で問題を共有し意見を出し合いサービスに反映している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	常日頃の挨拶を大切に、職員に徹底している。近隣の中学校の体験学習を受け入れ、町内会の清掃活動や行事にも参加し連携を図っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い地域とのかかわりを大切にしたい理念を作りあげている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者を主体とする理念を作り、内容を理解し毎日唱和している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し地域とのかかわりを大切にしている。認知症の研修会を企画し、地域住民に参加を呼びかけ互いに交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりの目標を掲げ、管理者と話し合い毎月評価しサービスの向上に努めている。色んな事情により昨年度の外部評価は実施していない。		評価の意義を理解し、事業所内の自己評価に加え外部評価を継続して実施する取り組みが期待される。
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	昨年度までは地域や市町村、家族等と連携し運営推進会議を定期的に行いサービスの向上に取り組んでいたが今年度は都合により開催されていない。		運営推進会議を定期的開催し地域との理解と支援を得るためサービス向上に継続して取り組むことが期待される。更にこれまでの参加者（地域住民や市町村職員、家族）の他に各ユニットリーダー等職員の参加も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとの連携を図りサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2～3ヶ月に1度通信を発行している。家族の訪問時を利用し、金銭管理や生活状況などを報告し信頼関係を築いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の訪問時や家族会で出された意見や要望について、真摯に耳を傾けている。出された意見は職員間で話し合い、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット間で職員の異動を行い、全ての利用者に職員が接することで離職や異動による利用者へのダメージを最小限に抑える配慮をしている。又、職員の離職は少なく、人間関係を大切に運営されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現任者研修を外部講師を招いて月2回行っている。介護に関する研修の他に実地訓練など幅広い研修を行い働きながらトレーニングをしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の必要性を感じているが実現していない。認知症の研修会の案内を地域の事業所に送付している。		管理者や職員が他の事業所との交流を深め、サービスの質の向上への取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者や家族が事前に事業所を見学し、納得されてから利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者の思いを理解し人生の先輩として家族のように接している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日常生活を通して利用者を理解し、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	担当職員は事前に利用者や家族と話し合い、カンファレンスに参加できない職員はレポートを提出し、全ての関係者に意見を求め、介護計画に反映している。計画作成者が家族に説明し了承を得ている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	概ね3ヶ月に1度の見直しを行っている。見直し以前に対応できない場合はその都度必要な関係者と話し合い現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は原則として家族が付き添っている。緊急時や家族の都合が悪い時などは事業所で対応している。協力医療機関との連携も築かれ月2回の往診があり、利用者の健康に留意し安心して過ごせる態勢を整えている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所で終末を迎えた利用者はまだいない。入所時に対応できることやできないことを家族に説明し医療との連携を図り全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉かけに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入浴時間など利用者のペースを尊重し、希望に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットごとに利用者の好みや要望を尊重した献立をたてている。皆と一緒に食事をし、準備や後片付けなども利用者と共に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が就寝前に入浴できるよう職員の遅出の勤務を夜8時までにして対応している。利用者の希望やタイミングを尊重し入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの利用者は自分にあった役割を楽しみながら行っている。広い菜園等環境にも恵まれ、張り合いを持ち生き生きと生活している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	穏やかな季節には外出支援を積極的に行っている。真夏や真冬などは事業所内の畑や広い庭を散歩し外気に触れ健康と気晴らしに配慮した支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。各ユニットの玄関には鈴をつけ玄関の出入りを把握している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け年2回夜間想定などのテーマを決め、近隣の住民に参加を呼びかけ訓練を行っている。まもなくスプリンクラーの設置工事も始まる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量や水分摂取量を一日を通して把握している。一人ひとりの日ごとの習慣を理解し、見守り、健康維持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気のよどみもなく、外気を十分に取り入れ自然の光があふれている。窓越しに果実や菜園などを眺めることができる。開放感がある共用空間は居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品や家族の写真、お仏壇などの心の支えとなる家具が持ち込まれている。身の周りの整理が出来ており清潔である。居心地良く過ごせる居室の配慮がなされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム グリンピュアあすなる(さくらユニット)

評価年月日 2009年 11月 7日

記入年月日 2009年 9月 30日

記入者 管理者 氏名 三好 秀子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	先月の目標ができたか成果、反省を話し合い、レベルアップと共有化に努めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>高齢者等の暮らしに役立つ様に公民館等に出向き話し合いを重ね地域に開放する支援に取り組んでいる</p>		<p>認知症サポーター研修等を実施している。年1回、認知症研修会を開催し、広く地域住民に参加を呼びかける。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>出来ているところは継続できるよう日々取り組みをし、指摘いただいた所は、全体で話し合い改善に努めている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議に報告し、業務内容の改善に努め、会議の意見を反映したサービスの向上に努めている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町、地域包括支援センター等との連携の機会を設け指導助言を得て、サービスの向上に努めている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者や職員は成年後見制度について理解しており、現在活用している入居者がいる。</p>	○	<p>成年後見制度以外の権利擁護についても理解を深めるよう努めていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング等で話合う機会を持ち、防止に努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
—			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に徹底して説明し、理解を得ている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人からじっくり話を聞きその都度対応している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に連絡をとり、日々の様子を伝えている。	○	変化があれば家族に連絡し、その後のケアに生かしている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からじっくり話を聞き、その都度対応している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスを通して、職員が気軽に意見が言えるように配慮している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活の流れに沿い援助の必要性に応じてローテーションが組んである。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安感等を考慮し、ユニット間での人事異動をおこなっている。		異動があった場合はケアカンファレンスを通して利用者全体の状態の把握に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の質の向上をめざし、内部、外部ともに研修に参加できるときは受講している。研修内容については、全ての職員に回覧している。	○ 人材育成研修を毎月実施している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス事業を推進するための協力福祉施設との連携、交流、訪問活動をし、サービス向上に努めている。	○ 交流や活動する機会には、積極的に参加している。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員の話聞き理解し、職員相互の親睦を深める努力をしている	○ 忘年会をもち、管理者や職員の親睦を深めている。その際に2回行なうなど全員参加できる状況にしている。
22	向上心を持って働けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務評価に対応した給与体系を採用し、士気の高揚に努めている	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で本人の意見を聞き、本人状況を把握するよう努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で家族からの情報収集をする機会をつくり、意見交換をすることにより信頼関係に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談で本人、家族の意見を聞き必要な支援を提供している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	使い慣れた家具や生活用品等を持ち込み以前と変わらない生活環境にしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの自己主張を職員が十分受け入れてそれらの要望をその人の個性として捉え援している		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便り(写真を掲載し職員のコメント等を書き添えたもの)を発行しており、家族からも喜ばれている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には職員が近況を話したり、過去の利用者のエピソードを聞いたりしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や訪問が自由であり、家族の協力を得て、支援ができています	○	昔馴染みや家族が訪問した際、ゆっくりと過ごせる環境を提供している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士が関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士がカレンダー作り、貼り絵などを通して助け合い、良い関係が作れるように配慮している	○	入居者の個性、他の入居者との状態を見極めながら、良い関係が作れるよう必要に応じて声かけ等の配慮をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	居宅等間接的ではあるが、その後の様子をうかがったりして、関係を断ち切らないよう努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成者が中心となり、職員全員が観察と気付きを共有し、課題を浮き彫りにする。	○	一人ひとりがどんな希望をお持ちかできる限り聞く様に心がけている。スタッフ全員がそれぞれ聞くようにしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の許可を得、本人の昔をよく知っている人からの情報をプライバシーの保護を配慮しながら伝えてもらう。	○	日常の暮らしの中で回想療法を目的にこれまでの生活等の会話を引き出すことにより把握に努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のペースに添って援助している。 食事、 おやつ、入浴時間等		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の立場に立って、その時点の状態に添い本人の視点を大切に介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態や計画内容に応じ、期間を設定している。また状態の変化に応じ随時見直しを行い、記録としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、本人の言葉など身体的状況を個別に記録し、情報を共有し、ケアに活かしている。		
3 . 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの楽しみ事、役割、出番を作り出す工夫をしている。職員の主導にならないように気配りをしている。		
4 . 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所や周辺地域等との連携をとり、見守りの協力を得ている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅、在宅支援センターと、訪問・来訪時を通してうまく連携している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからのタウンミーティング等の参加要請については、積極的に参加し、助言を得ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれに主治医があり気軽に相談ができるようにしている。また、緊急時の対応も協力医療機関を設けている。	○	家族の協力も得て、かかりつけ医に受診してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域福祉に対して理解していただき、熱心に取り組んでいただいている。待ち時間の配慮、平素連携を保っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	それぞれに主治医があり、利用者の日常の健康状態に応じて連携を取っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	開設時より医療機関の協力が得られており、連携が図られている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族に説明し、同意書に同意を得ており、その方針を共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当ホームで「出きる事、出来ない事」を見極め医療との連携を図り支援している。	○	医療機関と密に連絡をとり、心身の変化や異常発生時には、往診して頂けるような体制が出来ている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に伴うダメージを緩和出来る様、家族や医療機関と提携を取り援助している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	穏やかな口調で一人ひとりに合わせた言葉かけやさりげない介助をしている	○	一人一人に合わせた声かけやスキンシップを心がけていく。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	買い物等の外出時、本人が買いたい物を選べるようにしている。またおやつを何にするか決めてもらう等の場面行っている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせている。 入浴時間を本人の希望を優先している	○	生活のリズムに配慮しながら本人なりのペースで行えるよう支援していく。 起床や入浴時時間など
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力のもと理容院を利用している。2ヶ月に1回出張理容院」に来て頂いている。	○	持参されている洋服を季節、雰囲気出来る限り合わせて着て頂いている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ物を食べ、季節感、食欲、食べる動作を引き出している。また支援により配膳や下膳もしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の嗜好に合わせて提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿のパターンに併せた支援をしている。排泄の自立に向けて支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	湯温、時間帯、長さなど本人の希望を尊重している。日中だけでなく夜間も含めた入浴時間を設けている。	○	日々、利用者さんの心身の状況を把握し、入浴を楽しんでいただく様に助言している
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の疲れ具合により、個別に休息を取って頂いている。自室以外にもソファ、畳など個人の選択により休んでもらっている。また生活リズムを作りなるべく安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員の主導にならないよう一人ひとりに合った役割、出番を作り出す工夫をしている。	○	レクリエーションの中で、その人に房わしい役割を作り、実行して頂いている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力量に応じて金銭管理の出来る入居者には、小額のお金を持っていただき、買い物などの時、自分で支払う機会を作るよう支援をしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩等の外出回数を職員全体で工夫している。また外出が困難な方には、玄関先へ出る機会をもうけている。	○	買い物や散歩以外にも玄関先で外気浴、庭へでて日光浴をするなど日々、努めている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の情報誌をもとに季節を感じる行事(花見、菊花展など)に出かけている	○	家族とともに利用者全員と日帰り旅行等を実施している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出す支援をしており、家族とのやりとりが来ている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気軽に訪問できるように出入りは自由にしている。また入居者と一緒にくつろいでもらえるような気配りをしている。	○	自室以外でも共有のスペースで団欒する雰囲気作りをしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒などの入居者が抱えるリスクに対して身体拘束をしない介護上の工夫を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の方が外に出て行きそうな雰囲気をキャッチしたら止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒について行くなど安全面に配慮している	○	常に見守り、声かけをしてコミュニケーションを大切にし、利用者の心身状況の把握に努め離設を防いでいる。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜とも職員が入居者を見守りやすい位置にすることを徹底している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や危険物は、事務所内で保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットに記録し、再発防止についてはカンファレンス等で話し合っている。また、職員全体で事故事例による学習会を実施している。	○	学習にとどめず危機感を常に持ち日頃の介護に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態の対策のマニュアルを常にわかる場所に設置し、職員が熟知している。危機管理を常にもち行動している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平素より訓練を行っている。	○	年2回、消防署の協力を得て入居者、職員全員参加のもと避難、誘導、消火訓練を実施している。併せて年1回、職員の夜間非常召集訓練を実施している。
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態変化を随時家族に説明し周知してもらったうえで、その人らしく、自分らしく、家庭的により近い生活が出来るよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に顔色や様子にを気にかけて変化や異常の発見に努めている。個々の介護記録用紙に記入している。	○	変化が見られた時は、バイタルチェックを行ない、発するサインを見落とさないようにしていく
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示どおり服薬できるよう支援し、服用時には再確認するようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	暮らしの中で乳製品を取るなど、食材、メニューの工夫、散歩等体を動かす機会を工夫している	○	起床時の排泄パターンを生活リズムで作るよう努めている。腹部マッサージも行なっている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の介護記録に食事、水分摂取量をつけて把握している。散歩や入浴後は、必ず水分補給に努めている。	○	月目標にも上げて施設全体で取り組んでいる。おやつ の工夫(寒天ゼリ - など) やいろいろな種類の飲み物 を提供している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル資料にて把握し、手洗い、消毒に努めている。 インフルエンザ予防接種をしている。	○	衛生係を中心に働きかけている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、消毒、まな板、布巾等台所用品はハイター消毒をし、衛生保持に努めている。 食材の賞味期限に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前、庭には、四季折々の草花を植えるなどし、家庭的な環境を作る取り組みをしている。	○	玄関前庭は、入居者とその後家族とともに、毎年花の 植え替えを行い、気軽に出入りしやすい雰囲気作りに 努めている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けるなどし、温かい空間づくりにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を設置して共用空間を設け、思い思いに過 ごして頂けるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真など思い出の品を持ち込まれている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングには温度計があり、入居者に合わせて温度調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の現在の状態に応じて要所には手すりが配置されている。また物干しや洗面台の高さも調節されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の表札を親しみやすいものにし、トイレ、浴室には大きな字と色分けをして表示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	物干し場の工夫、雨の日は中で干せるようにスペースがある。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 自然豊かな環境と人情味の深い地域で、地域の人たちとふれあいを深めつつ、四季を感じながら生き生きと生活して頂けるよう取り組んでいます。
- 当事業所の有効的資源である菜園、花壇等を活用しながら残存機能を活かしたその人らしい生活を支援しています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム グリンピュアあすなろ(すみれユニット)

評価年月日 2009年 11月 7日

記入年月日 2009年 9月 30日

記入者 管理者 氏名 池口 仁子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	毎月職員全員が個人目標を立て、実践し、自己評価を行なっている。カンファレンスで発表しあい、理念の共有化をはかる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族会や運営推進会議の場において、認知症の人の理解やグループホームの役割を説明し、認知症ケアの推進を図っていく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	積極的に地域の行事や活動に参加できるよう、外出の機会を増やしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者等の暮らしに役立つ様に公民館等に出向き話し合いを重ね、地域に開放する支援に取り組んでいる		認知症サポーター研修等を実施している。年1回、認知症研修会を開催し広く地域住民に参加を呼びかけていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	出来ているところは継続できるよう日々取り組みをし、指摘いただいた所は、全体で話し合い改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に報告し、業務内容の改善に努め、会議の意見を反映したサービスの向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町・地域包括支援センター等との連携の機会を設け指導助言を得て、サービスの向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度について理解しており、現在活用している入居者がいる。	○	成年後見制度以外の権利擁護についても理解を深めるよう努めていく
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話合う機会を持ち、防止に努めている。	○	入浴時等に身体チェックに努め、傷や打ち身があれば、職員全員が共有し、原因の追求解明を話し合うことにより、未然に防止できる体制を整えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
—			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に徹底して説明し、理解を得ている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人からじっくり話を聞きその都度対応している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に連絡をとり、日々の様子を伝えている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からじっくり話を聞き、その都度対応している。	○	家族からの意見や苦情があったときは、職員全員が周知し(気づきノートの活用)し、改善にむけ対応している。家族会においても、意見や要望を聞きだしていく
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスを通して、職員が気軽に意見を言えるように配慮している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活の流れにそい援助の必要性に応じてローテーションが組んである。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安感等を考慮し、ユニット間での人事異動をおこなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の質の向上をめざし内部、外部ともに研修に参加できるときは受講している。研修内容については、全ての職員に回覧している。	○ 外部講師による育成研修を毎月実施している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス事業を推進するための協力、福祉施設との連携、交流、訪問活動をしサービス向上に努めている。	○ 交流や活動する機会には、積極的に参加している。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、事業者が職員の話聞き理解し、職員相互の親睦を深める努力をしている。	○ 忘年会や食事会をもち、管理者や職員の親睦を深めている。その際に2回行なうなど全員参加できる状況にしている。
22	向上心を持って働けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務評価に対応した給与体系を採用し、士気の高揚に努めている	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初めに築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で本人の意見を聞き、本人状況を把握する機会を作り、信頼関係に努めている。	
24	初めに築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で家族からの情報収集をする機会をつくり、意見交換をすることにより信頼関係に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談で本人、家族の意見を聞き必要な支援を提供している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	使い慣れた家具や生活用品等を持ち込み以前と変わらない生活環境にしている	○	ホーム入所前に本人、家族の見学を受け入れ、ホームの雰囲気を味わって頂いている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの自己主張を職員が十分受け入れてそれらの要望をその人の個性としてとらえ支援している	○	信頼関係を築き、人生の先輩としてまた家族のように接していく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便り(写真を掲載し職員のコメント等を書き添えたものを発行しており、家族からも喜ばれている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には職員が近況を話したり、帰られる際には、利用者とともに玄関まで見送りをしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や訪問が自由であり、家族の協力を得て、支援できている	○	昔馴染みや家族が訪問した際、ゆっくりと過ごせる環境を提供している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係や個性をうまく活かす配慮をしている。	○	職員が間に入り、入居者同士が関わりやすいように配慮している。認知面がより難しい方にも職員が積極的に働きかけていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	居宅等、間接的ではあるが、その後の様子をうかがったりして、関係を断ち切らないよう努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が情報を共有し、入居者一人ひとりの状態を把握している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーへの配慮を忘れずに本人や家族等から情報を得、日々の生活に活かすようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のペースに添って援助している。 入浴時間を本人の希望を優先している。	○	今までの生活習慣を受け入れ、支援していく
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の立場にたって、その時点の状態に添い本人の視点を大切に介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態や計画内容に応じ、期間を設定している。 また状態の変化に応じ随時見直しを行い、記録として記している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、本人の言葉など身体的状況を個別に記録し、情報を共有しケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員の主導とならないよう一人ひとりにあった役割、出番を作り出す工夫をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所や周辺地域等との連携をとり、見守りの協力を得ている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅、在宅支援センターと、訪問、来訪時を通してうまく連携している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからのタウンミーティング等の参加要請については、積極的に参加し、助言を得ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれに主治医があり気軽に相談ができるようにしている。また、緊急時の対応も協力医療機関を設けている。	○	家族の協力も得て、かかりつけ医に受診してもらっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域福祉に対して理解していただき、熱心に取り組んでいただいている。 待ち時間の配慮、平素連携を保っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	それぞれに主治医があり、利用者の日常の健康状態に応じて連携を取っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	開設時より医療機関の協力が得られており、連携が図られている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族に説明し、同意書に同意を得ており、その方針を共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当ホームで「出きる事、出来ない事」を見極め医療との連携を図り支援している。	○	医療機関と密に連絡を取り、心身の変化や異常発生時には往診して頂けるよう体制が出来ている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に伴うダメージを緩和出来る様家族や医療機関との提携を取り援助している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	穏やかな口調で一人ひとりに合わせた言葉かけやさりげない介助をしている	○	一人一人に合わせた声かけやスキンシップを心がけていく。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	買い物等の外出時、本人が買いたい物を選べるようにしている。またおやつを何にするか決めてもらう等の場面も行っている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせている。 入浴時間を本人の希望を優先している	○	生活のリズムに配慮しながら本人なりのペースで行えるよう支援していく。 起床や入浴時間など
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力のもと理容院を利用している。 2ヶ月に1回出張理容院」に来て頂いている。	○	毛染めを希望される方には、近所の理美容院を利用できるよう支援している。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ物を食べ、季節感・食欲・食べる動作を引き出している。また支援により配膳や下膳もしている。	○	食べたい物など聞き出し、メニューに取り入れている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の嗜好ににあわせて提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄のパターンを把握し、声かけ誘導を行なっている。また、排泄チェックや排便チェックを行ない、排泄の自立に向けて支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	湯温、時間帯、長さなど本人の希望を尊重している。日中だけでなく夜間も含めた入用時間を設けている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の疲れ具合により、個別に休息を取って頂いている。自室以外にもソファ、畳など個人の選択により休んでもらっている。また生活リズムを作りなるべく安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員の主導にならないよう一人ひとりに合った役割、出番を作り出す工夫をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力量に応じて金銭管理の出来る入居者には、小額のお金を持っていただき、買い物などの時、自分で支払う機会を作る支援をしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭や畑があり、外へ出る機会を作っている。また外出が困難な方には、玄関先へ出る機会を設けている。	○	少しの時間でも玄関先等へ出て、外気浴や日光浴をしたり、施設周辺を散歩するなど支援している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の情報誌をもとに季節感を感じる行事(花見、菊花展など)に出かけている	○	家族とともに利用者全員と日帰り旅行をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出す支援をしており、家族とのやりとりが出来ている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気軽に訪問できるように出入りは自由にしている。また入居者と一緒にくつろいでもらえるような気配りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員がしっかり認識しており、取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある人を把握し、見守りを徹底しているので、日中は鍵をかけていない。更なる安全の為に、出入り口へ音のなるものをつけている。	○	玄関へ出られたら、止めるのではなく、状況に応じて付き添い安全面に配慮している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜とも職員が入居者を見守りやすい位置にすることを徹底している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や危険物は、事務所内で保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットに記録し、再発防止については、カンファレンス等で話し合っている。また、職員全体で事故事例による学習会を実施している。	○	学習にとどめず危機感を常に持ち日頃の介護に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態の対策のマニュアルを常にわかる場所に設置し、職員が熟知している。常に危機管理をもち行動している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平素より訓練を行っている。	○	年2回、消防署の協力を得て入居社、職員全員参加のもと避難、誘導、消化訓練を実施している。併せて年1回、職員夜間非常召集訓練を実施している。
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態変化を随時家族に説明し周知してもらったうえで、その人らしく、自分らしく家庭的により近い生活が出来るよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に顔色や様子を気にかけて変化や異常の発見に努めている。個々の介護記録用紙に記入している。	○	少しでも変化が見られた時は、バイタルチェックを行ない、発するサインを見落とさないようにしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在の処方薬がすぐわかるように個々の記録用紙とともに処方箋を綴っている。服薬時には、再確認するようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	暮らしの中で乳製品を取るなど、食材、メニューの工夫、散歩等、体を動かす機会を工夫している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施している。(義歯洗浄も毎食後行なっている。) そのことが入居者の方にも習慣している。。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の介護記録に食事、水分摂取量ををつけて把握している。散歩や入浴後は、必ず水分補給に努めている。	○	月目標にもあわせて施設全体で取り組んでいる。おやつ の工夫(寒天ゼリ・など)やいろいろな種類の飲み物 を提供している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル・資料にて把握し、手洗い、消毒に努めている。 インフルエ ンザ予防接種をしている。	○	衛生係を中心に働きかけている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、消毒、まな板、布巾等台所用品はハイター消毒 をし、衛生保持に努めている。 食材の賞味期限に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 事 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前、庭には、四季折々の草花を植えるなどし、家庭的な環境を作る取り組みをしている。	○	玄関前の庭は、入居者とその御家族とともに、毎年花 の植え替えを行ない、気軽に出入りしやすい雰囲気作 りに努めている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にと って不快な音や光がないように配慮し、 生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	花を生けるなどし、家庭的な温かさを作るようにしてい る。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気 の合った利用者同士で思い思いに過ごせ るような居場所の工夫をしている	ソファや畳・窓際に椅子を設けるなどしてあり、思い 思いの場所で過ごしていただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真など思い出の品を持ち込まれている。また、仏具を持ち込まれている方いる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングには温度計があり、入居者に併せて温度調節している。また、換気も積極的に行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の現在の状態に応じて、要所に手すりが配置されている。浴槽内には滑り止め、物干しや洗面台の高さも調整している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札を親しみやすい物にし、状態により大きく目立つものにしてしている。 トイレ・浴槽は大きな字で表示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇を設けてあり、園芸や野菜作りをしている。 物干し場の工夫、雨の日には中で干せるようなスペースがある。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 自然豊かな環境と人情味の深い地域で、地域の人たちとふれあいを深めつつ、四季を感じながら生き生きと生活して頂けるよう取り組んでいます。
- 当事業所の有効的資源である菜園、花壇等を活用しながら残存機能を活かしたその人らしい生活を支援しています。